

教材No.	補I	アイデアの魅力を表現しよう
関連教科	国語（現代の国語／論理国語／国語表現）	

■教材の概要

- ①身の回りで関心のあるものに着目し、その利点を他者に伝える文章を作る力を育みます。
- ②自分本位の文章にせず、「相手意識」や「比較」という視点を含めた文章を考えることで、主張の説得力を高めるための考え方を身につけます。

■学びの流れ

段階	活動内容	指導上の留意点、教材作成の狙い
（事前活動）	0 身の回りで気になるアイデア商品を見つけ、その良い点などを考えておく。	0 生徒にとって扱いやすいテーマで構わない。なかなか出ない場合には、例えば文房具やデジタル機器等、対象を例示することも一案
導入 5分弱	1 アイスブレイク（事前活動の内容を、席の近い人と共有、又は、全体で共有）。 2 取り組む課題内容を聞いて理解する。	1 事前活動の内容について、数名から記入内容を紹介してもらう。 2 自分本位の文章にせず、他者が魅力を感じるような文章を作らなければならないことを強調する。
展開1 30分	3 自身が選んだアイデア商品の魅力を説明するための文章を個人で作成する。 4 作成した文章を、他者と交換して読み合う。この際、他者の文章について、良いところや改良案を探す視点で読む。 5 他者のシートに、フィードバックを記入する。	3 (-) 4 他者の文章を読む際の視点を解説し、良い点と改良点の双方から考えることを促す。 5 (-)
展開2 10分	6 事前活動時に出されていた視点の解説を聞き、自分の文章で不足している部分がないかを見直す。 7 他者からのフィードバックを読み、自分の文章に改良点がないかを個人で考える。 8 解説（6）および他者からのフィードバックを踏まえて、作成した文章を再度推敲し、必要に応じて修正する。	6 事前活動時に設定されていた視点について解説する。 ○社会への提供価値：自分本位の説明でなく、相手意識を持った文章作成を促す意図があると伝える。 ○類似商品：似たような価値との違いに着目することで、比較を意識した文章作成を促す意図があると伝える。 7 他者からのフィードバックについて、すべてを取り入れなければならないわけではないことに留意する。 8 後で見直せるよう、初稿とは別のシートに最終稿を記入するよう促す。
まとめ 5分弱	9 初稿と最終稿を見比べ、違いを理解し、今後文章を作成する際に意識していくべきポイントをメモする。	9 他者に何かを訴求する文章を作成する際に、相手意識や比較等の視点を持つことの重要性を再度認識してもらう。
（事後活動）	10 （時間的余裕があれば）今回作成した文案をもとにして、プレゼンテーション資料を作成し、発表を行う	10 プレゼンテーションを実施する場合には、主張の根拠となるデータ収集等を行わせ、図やグラフを取り入れた資料作成を指導する。

■学習の目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
主張の説得力を高めるための技法や論理構成を理解する。	着目したアイデアの利点について、誰にどのような視点で訴えかけるのが有効であるかを考え、整理できる。また、その際に効果的なキーワード等を自ら判断して使用することができる。	社会で活用されているアイデアの素晴らしい点を探し、それを他者に理解してもらおうとする姿勢を持つ。

■活動の狙い（知財創造教育の要素との関係）

段階	尊重			創造			社会		
	人間の心を尊重する	既存のアイデアを尊重する	他者の強みを尊重する	課題を見つける	解決策・アイデアを考える	アイデアを表現する・伝える	自他の暮らしや人生を豊かにする	持続可能な「社会・文化」に貢献する	「未来」に貢献する
事前活動		●				●	●		
導入									
展開Ⅰ		●	●			●			
展開Ⅱ		●		●		●			
まとめ		●		●		●			
事後活動		●				●			

■参考文献

No.	文献名称	URL等
一		